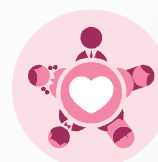


# すべての人々が、生き活きとした生活を送ることができる社会の実現



地域の健やかな暮らしを支える



多様な移動ニーズに応える

## 生き活きした生涯生活を支援する技術・製品の開発



3 すべての人に健康と福祉を

### 目標 3

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



8 働きがいも経済成長も

### 8.5

2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する。



10 人や国の不平等をなくそう

### 10.2

2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、すべての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

該当する  
SDGs  
ターゲット



### 社会的課題

病気や怪我による身体の障がいや加齢による身体機能の低下により、健康な時と比べその活動に制限を強いられる人々は世界中に数多くいらっしゃいます。行動に制限があることが要因で移動自体が困難となる場合もあります。すべての人々が社会から孤立せず、生き活きと生活することは重要な課題だととらえています。



様々な路面で安心して走れるスポーツ義足用ゴムソールや、車いす競技で使用するグローブ用にゴムの研究開発をするなど、パラアスリートの挑戦をサポートしています。

## パラアスリート支援



秦 由加子 選手  
パラトライアスロン

### Voice

感動するぐらいのグリップ感と本当に安心して走れることに驚きました。

ブリヂストンのゴムや自転車に関する専門的な目線からのサポートはとてもありがたいと思っています。実際にレースで精一杯応援してくださったり、用具の調整や要望を聞いてくださること…それが力になっています。

東京2020パラリンピックで、チームブリヂストンと一緒に喜べる結果を出したいと思っています。



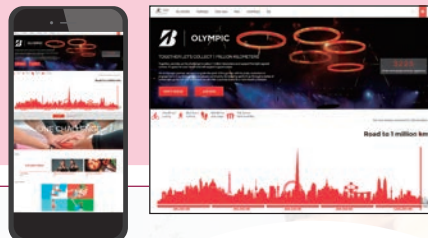
## 従業員の健康増進と 社会貢献活動を連動

Bridgestone EMEA (BSEMEA)では、従業員の健康増進と社会貢献活動を連動させる仕組みとして、2018年1月から、従業員の歩いた距離と「がん予防活動支援」への寄付活動が連動するプログラムを実施しています。今後、アジア・大洋州や日本国内のブリヂストングループでも同様のプログラムを実施する予定です。

### スマートフォンを活用した参加型のプログラム

従業員一人ひとりが行う運動(歩く、走る、階段昇降等)をキロメートル換算し集計

→ 集められた運動量がBSEMEAの寄付活動に連動



## ブリヂストンのアプローチ

ブリヂストングループがこれまで培ってきたタイヤや自転車・スポーツ用品に関する技術、スポーツ関連事業に関する知見を結集し、誰もが日々の生活やスポーツ活動を支障なく行うことができるようにするための研究を推進しています。その事例として、ゴム人工筋肉や、スポーツ用品の開発などに取り組むと共に、スイミングスクール事業の拡大や従業員の健康とがん予防への支援をつなぐ活動を行っています。

## 一人ひとりの “Active and Healthy Lifestyle” を実現

これらの取り組みによって、一人ひとりが活き活きとした生涯生活を送ることに貢献していきます。

それが社会全体の健康向上につながり、  
地域社会の活性化にも  
つながることが期待されます。

## スポーツで地域社会の健康をサポート

ブリヂストンスポーツアリーナでは1992年の設立以来、地域の人々の心と体の健康づくりの支援を目指し、地域のお子様の健全な成長や地域の皆様の快適な生活設計支援に取り組んでいます。近年は一般成人の生活習慣病予防や高齢者の健康増進プログラムも行っています。



## 歩行トレーニング装置の開発を開始

ブリヂストンは東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 川嶋健嗣教授と共同で、シニアの健康増進に貢献する歩行トレーニング装置の開発に着手しました。これはユーザーの体に装着したゴム人工筋肉で歩行動作をアシストする、あるいは負荷を与えるもので、これまでタイヤやホース開発で培ってきたゴムや補強繊維の技術を応用したものです。2018年には実用化に向けた実証試験を開始する予定です。

